

## Topics1 技術向上研修会(防護柵)を開催しました!

## Topics2 アライグマについて知っていますか?

### Topics1

当センターでは、鳥獣被害対策マイスター等を対象として、被害防止対策の適切な知識の普及や、技術定着等を目的に研修を実施しています。  
今回は、6月に実施した防護柵研修についてご紹介します。

#### ▼座学

タイガー株式会社(資材メーカー)の担当者を講師に、電気柵の基礎知識や設置上の注意点、安全な使用方法などについて勉強しました。

#### ▼現地研修

総合農業試験場において、電気柵とワイヤーメッシュ柵の設置実習を行いました。

かなり蒸し暑い中でしたが、皆さん熱心に作業に取り掛かり、正しい設置方法について学ぶことができました。

また、設置後は参加者から多くの質問が寄せられ、防護柵に関する関心の高さがうかがえました。

#### ▼最後に

研修全体を通し、現場で活用できる技術を学ぶことができました。当センターでは、『柵を設置したら完了』ではなく、維持管理の重要性について、引き続き普及を図ってまいります。



### Topics2

外来生物法により指定された特定外来生物「アライグマ」について知っていますか?



可愛らしい顔つきに縞々でフワフワの尻尾がとてもチャーミングです。

しかし!  
極めて凶暴な性質のため、飼主の手に負えず放獣されて野生化してしまった個体が生息域を拡大しています。

県内での目撃情報や錯誤捕獲も少しずつ増えてきています。



#### 【アライグマの特徴】

- ・全長は尾を含めて約60~100cm
- ・活動は夜が中心だが、昼間も活動する
- ・目の周辺を覆う黒い部分と白いひげ、縞々の尾
- ・雑食性
- ・指は5本



#### ▼どうしてアライグマが増えるといけないの?

- ・雑食性のため、農作物以外の在来種等も食べる
- ↓自然環境への影響大
- ・狂犬病に罹患している可能性
- ・人獣共通感染症(アライグマ回虫)の寄生疑い



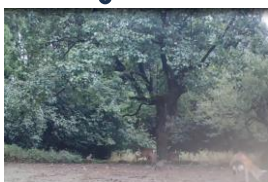
#### ▼もしもアライグマのような獣を見つけたら...

アライグマは法律により飼育や譲渡などが禁止されています。

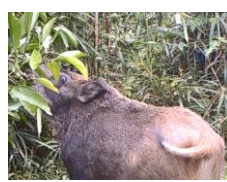
むやみに近づかず、可能な場合は写真や動画を撮影し、最寄りの市町村役場又は西臼杵支庁及び各農林振興局までご連絡ください。

### 豆知識 (センサーカメラについて)

野生動物の行動を知るために必要なセンサーカメラ。実際、どのような用途で使用するか、ご存じでしょうか?



放任果樹に動物が集まる証拠(シカ、サル)



みかん泥棒の犯人探し



電気柵の効果確認(シカが感電する瞬間)

センサーカメラは様々な種類がありますが、2万円以下(SSDカード込み)の価格でも十分な性能があります。購入しやすくなっています。興味のある方は、鳥獣センターまでお問い合わせください。

# ☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

## 西臼杵地域

### ①活動概要

令和4年度から高千穂町五ヶ所集落をモデル集落に位置づけ、イノシシやシカの被害防止対策を支援しており、令和5年度は「柵設置後の管理の重要性」の理解を促すために管理状況の確認も兼ねた集落内点検を実施するとともに、アンケート結果をもとに目撃例の多い中小型動物に対する被害対策研修を実施しました。

### ②活動内容・成果

集落点検では、集落総ぐるみでチェックリストを活用して、管理ポイントを確認するとともに、足跡表を用いて動物を特定する等して、柵設置後も動物が出没していることを認識してもらい、柵の効果を持続させるためには継続した管理が重要であることを理解してもらったことができました。

また、集落点検時に確認された足跡やアンケート結果をもとに中小型動物に関する研修会を実施し、動物の特性や対策の事例について説明しました。その後、グループワークによる柵管理マップや集落ビジョンを作成することで、新たな知識の習得や、今後被害から農地を守っていくという意識が醸成され、集落全体で鳥獣被害対策に取り組む体制が強化されました。

### ③今後について

ワイヤーメッシュ柵を新たに導入する集落において、集落全体での知識の習得や集落内点検の強化等、被害防止対策の支援を行い、各町でモデル集落の育成を図ります。



管理マップ、ビジョン作成



集落点検

## 中部地域

宮崎市木花地区のイチゴほ場では、以前から収穫時期の1月頃にアナグマによる被害があり、特に令和5年からは、ハウスの被覆資材を破ってアナグマが侵入し、問題となっています。

アナグマ対策として、これまでに箱ワナを設置し、数頭捕獲したにもかかわらず被害が止まらず、被害防止につながる対策が求められていました。

そこで、実質的な対策につながることを期待し、小動物対策として実用化されている、ネットと電気柵線が一体化した「電気ネット」の展示ほを設置しました。

中部管内では関係機関の知識と技術向上を目的に、技術研修会を例年11月に実施していることから、その機会を活用し、関係機関職員と一緒に設置を行いました。

「電気ネット」は通常の電気柵と比べ、防草シートと一体になっているためとても扱いやすく、設置も比較的短時間で行うことが出来ました。

ネット設置後は被害がなくなると生産者から喜ばれています。

施設園芸における小動物被害対策として、今後の波及が見込まれます。



ネット設置後の様子



アナグマの足跡



アナグマが開けた穴